

2017/4/19

## (日々雑感 81)



ひじょ〜に久しぶりにお休みが取れたので、銀行に店間振り替えに行って来ました。年金やら何やらが振り込まれる口座のキャッシュカードでの引き下ろしが出来ないので、店に出向いて出入金伝票を書いて、べつの生活口座に振り替え、キャッシュカードで引き出せるようにするためです。

生活口座の資金が底をつきそうになったので、本当は一日寝ていたかったのですが、やむを得ませんでした。

そのせいか、銀行の窓口で呼び出される順番を待っている間、ソファに座っていたのですが、知らぬ間に爆睡してしまったようです。蘄をかいていたかどうかは分かりません。

「もしもし、お客様、お客様、お客様の番号ではございませんか？」

とフロア係の女性に揺り起こされて、番号も見ずにカウンターに行きました。

「宇都宮様じゃございませんか？その後おうちにお戻りになられましたか？」

見ると

「あ、〇〇さん！お久しぶりです！！」

そういったカウンターの女性行員さんは、三ヶ月前にこの支店を訪れて、占領されている家に居る妙な輩に、有効期限後切り替えの新しいキャッシュカードが、その占領宅に届かないよう、やむなく事情を話して、既に発送ルーティンに乗っていたのを止めるようお願いした若いお母さん行員さんでした。

その折りは、たらい回しをせず、杓子定規なことも言わず、ワンストップにして自ら駆け回り、支店長特裁を取り付けて救ってくれた「女の男気」のある人だったので、名前まではっきり覚えていたのです。

しかし、三ヶ月前と大いに異なっていることが一つありました。

それは、三ヶ月前は多分風邪か何かを引いていたのだと思うのですが、その時していたマスクが今回はなかったのです。

遡ること十数秒前、

「えーっ！！何これ！！」

ぼくは、心の中で奇声を上げ、一瞬たじろいで居たのです。

超々超弩級の「ド」美人だったからです。

今時の女性にしては「男気」のあることに結構、感心していたのですが、そのメインの「優れもの」に対して、付いていた「オマケ」が、超々超弩級の「ド美人」だったとは。

まさに、まさまさ「えーっ！！何これ！！」

だったのです。

一瞬にして眠気が吹き飛んで仕舞いました。

ぼくは内心うろたえながら、挨拶もそこそこに這々の体でお店を後にしました。

天は二物を「与える」

格言とは大違いの一日でした。